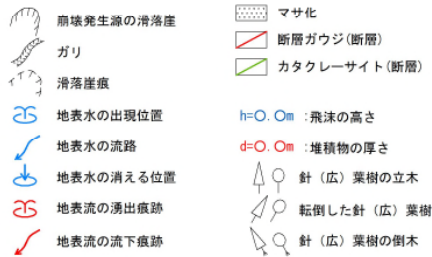


凡 例

時代	地質区分	構成
第四紀	完新世	H30. 7豪雨による土砂流または後続流堆積物
		H30. 7豪雨による土砂流堆積物
		2次マサ
	更新世	H30. 7豪雨以前の土砂流または崩壊等による岩屑堆積物
		西条層
		古赤色土または岩盤の強風化帯
中生代	白亜紀後期	広島花崗岩類
		高田流紋岩類



<<土石流発生溪流 溪流⑫の地質断面>>

高屋 I 地区⑫溪流の水系は楕形をなしており、右岸側の主流Aに対して、主に左岸側から多数の沢が合流している。最も高標高のA断面の発生源からの土石流は標高 350～300m の溪床の堆積物を取り込んで肥大化し、さらにB、C、D、E、Fの各断面からの土石流が合流した。標高 250m 以下では土石流は堆積しながら減勢し、山陽自動車道の道路盛土ではほぼ停止したが、一部がC-BOX や水路、暗渠管を通過して下流側へ土砂流が発生し、民家や畑に流れ込んだ。

G断面とH断面も土石流は発生したが、途中の緩斜面や堰堤で減勢し、Aと合流するときには、薄い土砂流になっていた。

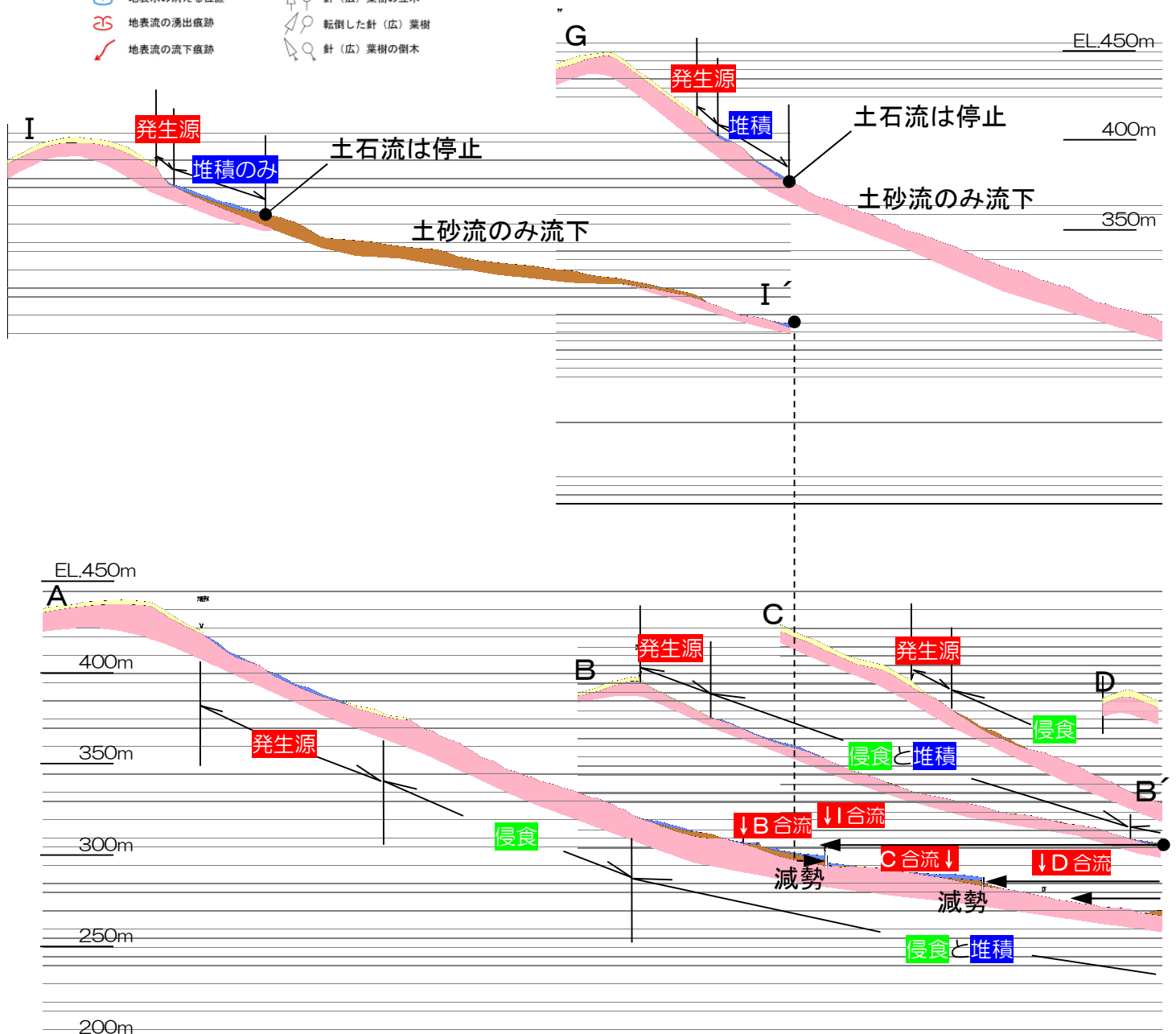


図 10-5 高屋 I 地区⑫溪流の

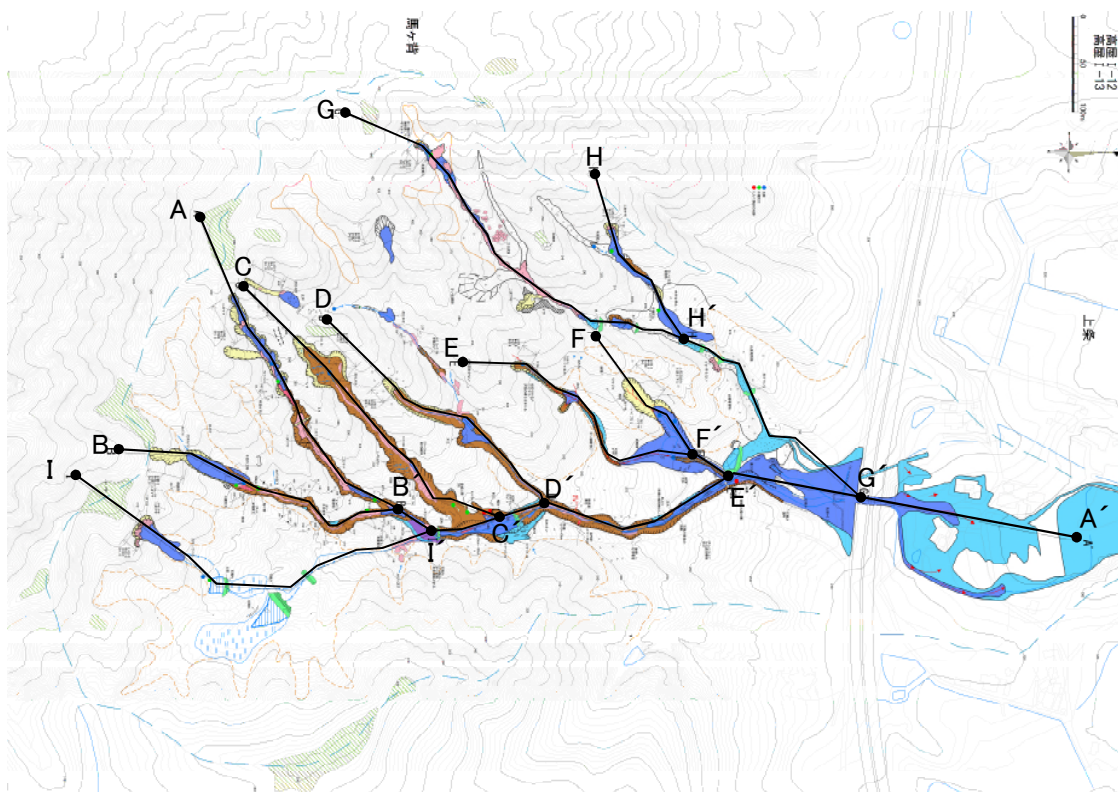
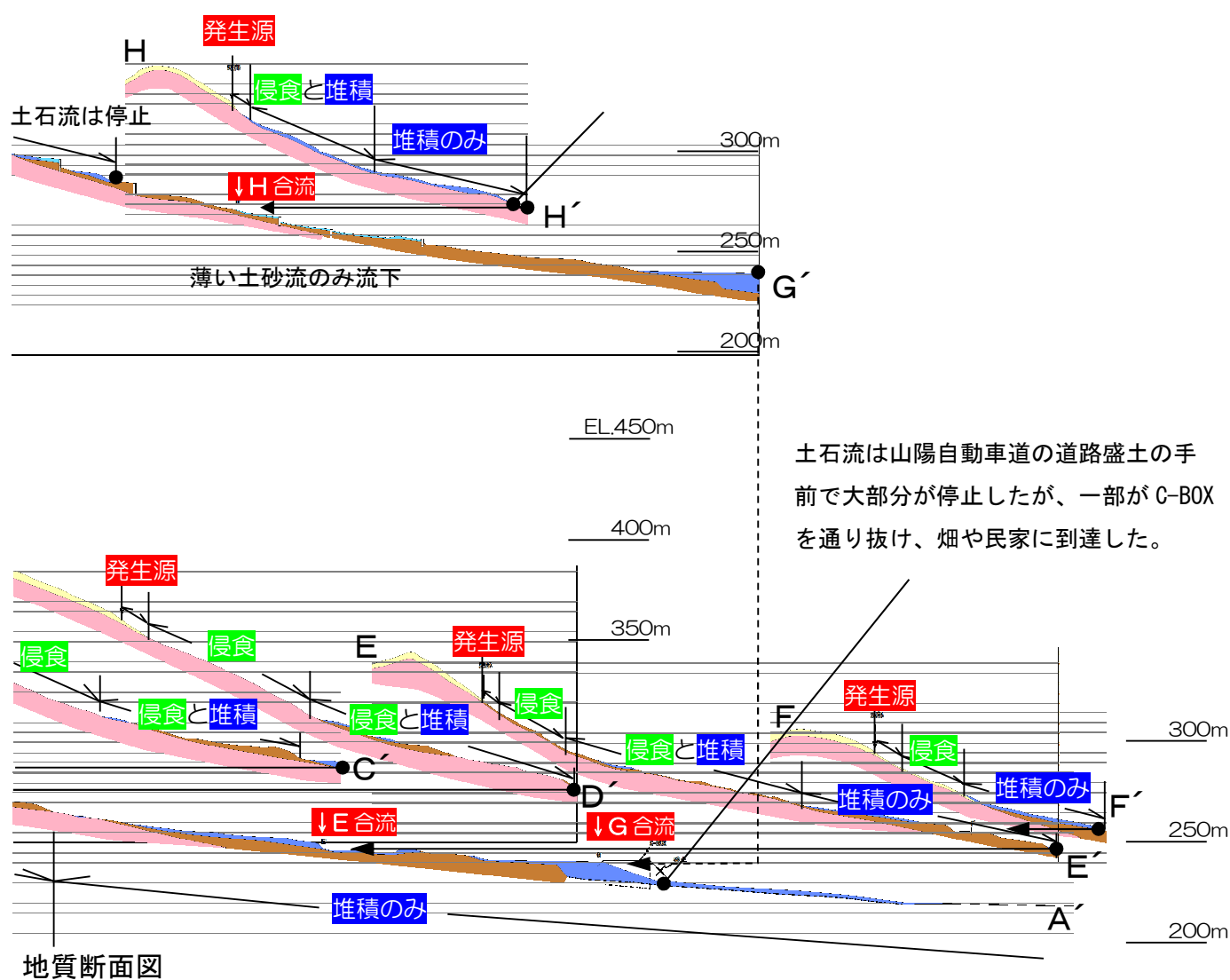


図 10-4 高屋 I 地区⑫溪流の断面作成位置



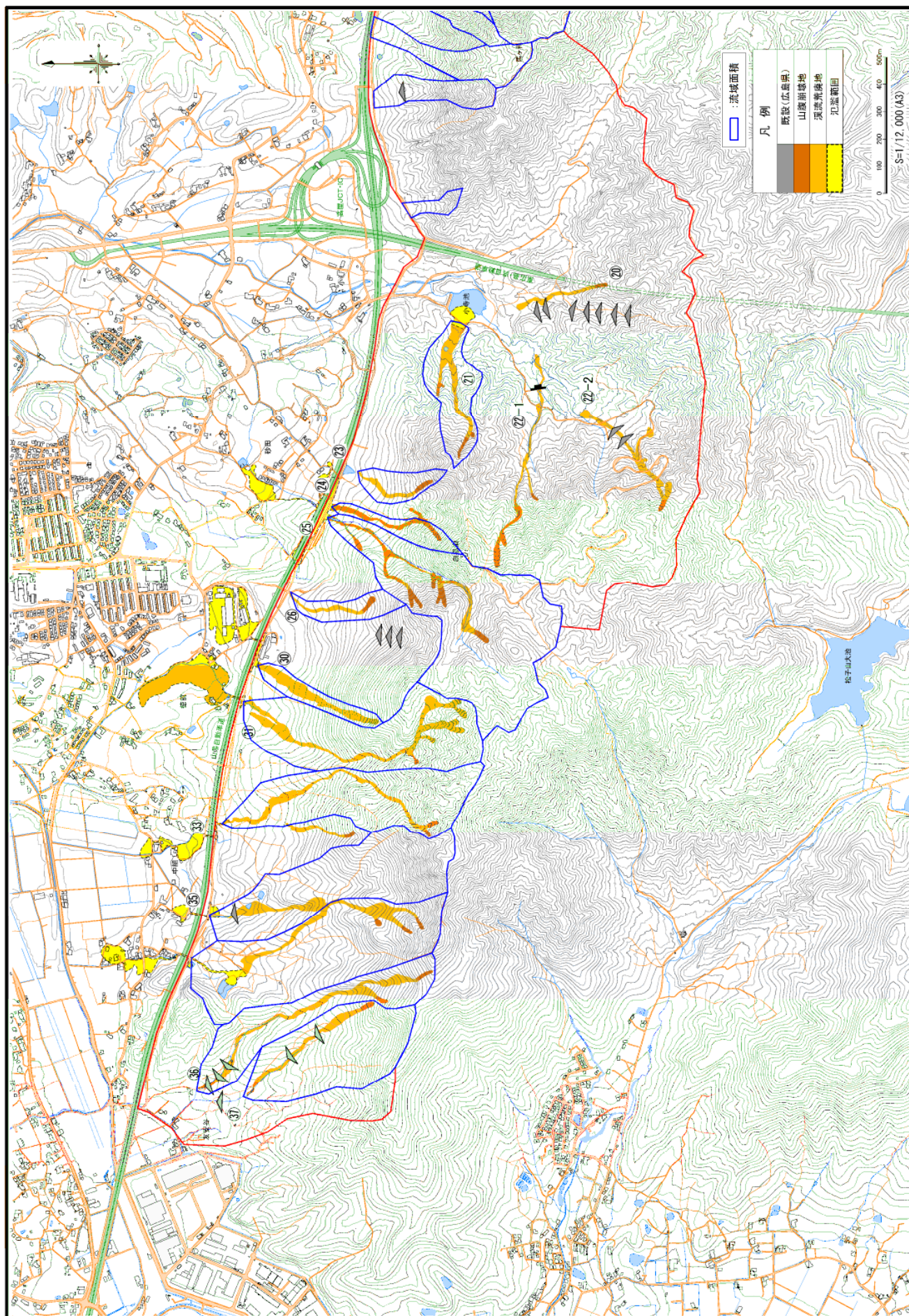


図.9(2) 高屋区域（高屋Ⅱ：西側）荒廃現況図

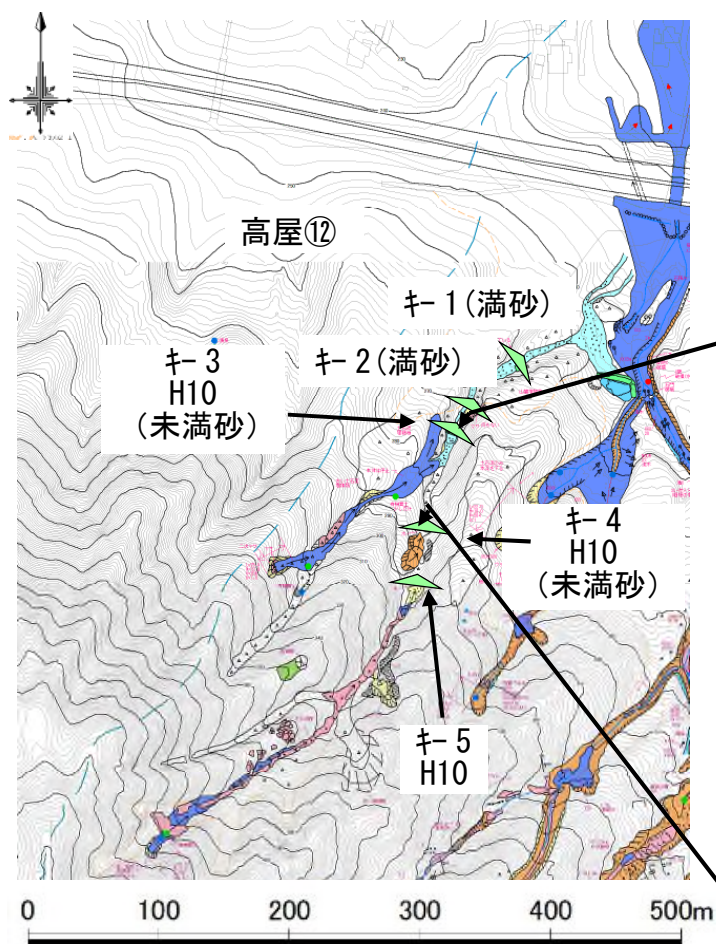


図 高屋地区 位置図抜粋

H10 年谷止工(キ-3)



H10 年谷止工(キ-3) 上流側未満砂



H10 年谷止工(キ-5)



H10 年谷止工(キ-5) 堆砂状況

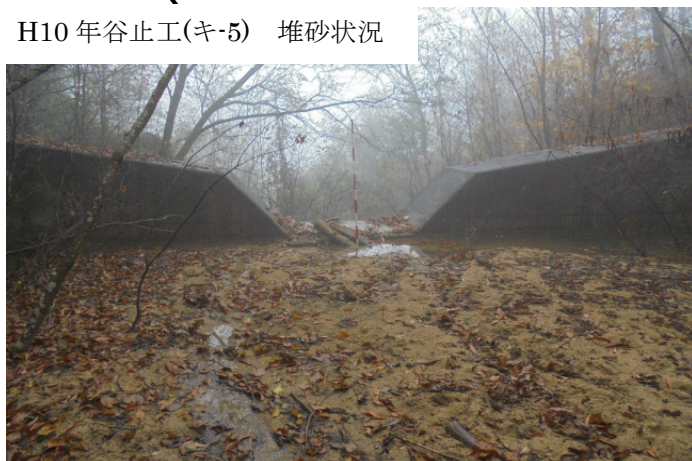


図. 11 高屋区域（高屋⑫荒廃地）における既設治山ダムの効果

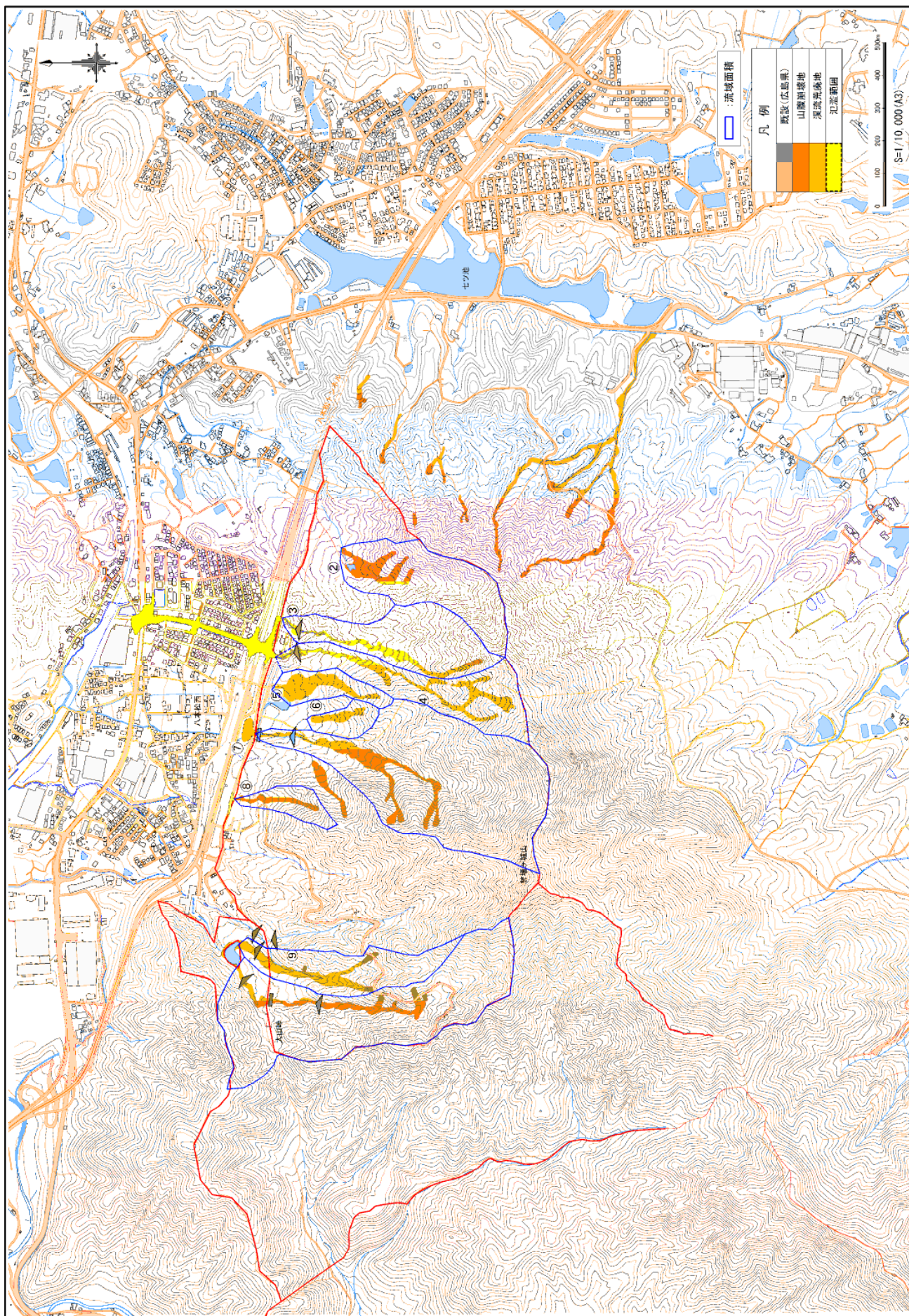
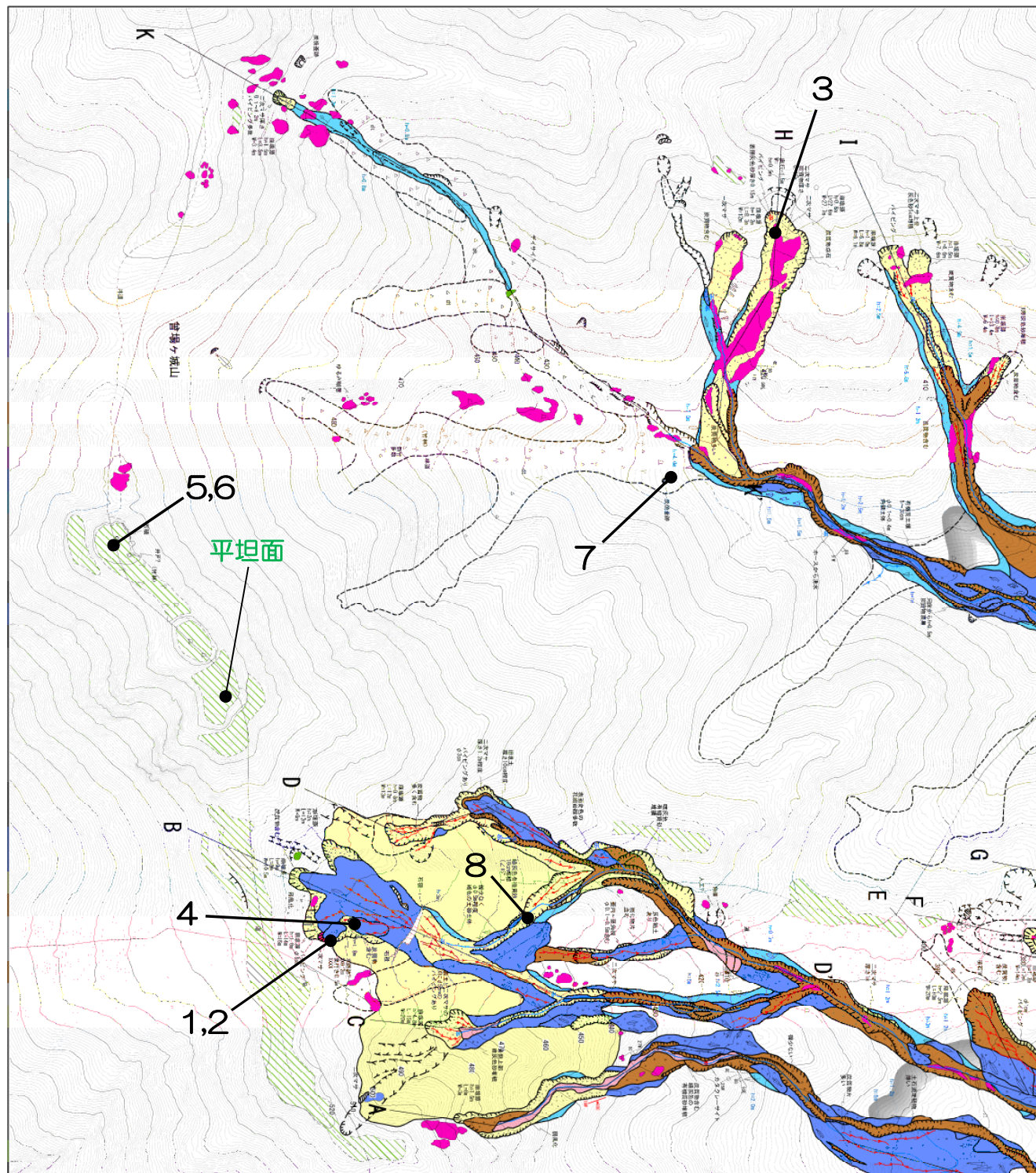


図.12 八本松区域 荒廃現況図



凡 例

時代		地質区分	構成
第四紀	完新世	 H30. 7豪雨による土砂流または後続流堆積物	細礫・砂・シルト
		 H30. 7豪雨による土石流堆積物	巨礫を含む礫・砂 (巨石を含むことがある)
		 2次マサ	主に砂
	更新世	 H30. 7豪雨以前の土石流または崩壊等などによる岩屑堆積物	礫・砂・シルト
		 西条層	礫・砂・シルト
		 古赤色土または岩盤の強風化帯	風化粘土・岩塊
中生代	白亜紀後期	 広島花崗岩類	黒雲母花崗岩 (アブライト、ペグマタイトを含む)
		 高田流紋岩類	流紋岩質溶結凝灰岩

- 崩壊発生源の滑落崖
- ガリ
- 滑落崖痕
- 地表水の出現位置
- 地表水の流路
- 地表水の消える位置
- 地表水の湧出痕跡
- 地表流の流下痕跡
- マサ化
- 断層ガウジ(断層)
- カタクレーサイト(断層)
- h-O Om : 飛沫の高さ
- d-O Om : 堆積物の厚さ
- 針 (広) 葉樹の立木
- 転倒した針 (広) 葉樹
- 針 (広) 葉樹の倒木

図 13-1 八本松地区③～⑧溪流



の踏査図

(1) 発生区 （長さ 50m×幅 50m×深さ 1.0m）

発生源は稜線に近い0次谷であり、複数の小規模な崩壊が複合している。山稜に平坦面（城跡）がある。



写真 13-1 八本松地区の



写真 13-2 発生源の炭を含む2次マサ



写真 13-3 発生源のパイプとウラジロ



④溪流の発生源



写真 13-4 ④溪流の発生源の地下水の湧泉となった古い石造り暗渠水路跡



写真 13-5 周辺に掘削土を排土したことを示す



写真 13-6 戦国時代の史跡であることを示す曾場ヶ城跡の看板



人工的な平坦面をなす稜線の曾場ヶ城跡



写真 13-7 最近まで炭焼きが行われていたことを示す看板

(2) 流下区

土石流は溪床の岩屑堆積物を侵食しており、発達形態は高屋地区と類似している。



写真 13-8 溪床の侵食跡



写真 13-9 溪床堆積物の腐植質砂質土



写真 13-10 巨礫を含む溪床堆積物の侵食



写真 13-11 堆積物中の水みちを示す礫表面の水酸化鉄



写真 13-12 堆積物中の水みちを示す礫表面の水酸化鉄



写真 13-13 土石流による巨礫を含む溪床堆積物の侵食